

学術大会開催報告

第17回学術大会開催報告

2015年10月28日～29日
於曹洞宗檀信徒会館3・4階

2015年10月28日・29日の日程で、曹洞宗檀信徒会館（東京グランドホテル）にて、曹洞宗総合研究センター第17回学術大会が開催されました。

大会は2会場にて行なわれ、1件のシンポジウム、47件の個人発表が行われ、連日多くの聴講者があり、盛会裏に閉幕しました。

大会初日は午前9時30分より「桜の間」にて開会式が行なわれ、本尊上供、宗歌斉唱の後、釜田隆文宗務総長、大谷哲夫総合研究センター所長が挨拶されました。

引き続き午前10時から「桜の間」にて、「宗教と法律」研究プロジェクトによる、シンポジウム宗教と法律—「裁判員制度」を考える—が開催されました。

「人を裁く」ことの意味を問う裁判員制度について、宗侶へ正確な情報伝達と情報整理のための一助となるべく開催されたシンポジウムでは、宮地清彦センター専任研究員、落合洋司委託研究員を司会に、①「裁判員制度の現況と今後の展望」として、弁護士でもある落合洋司委託研究員より、②「仏教者は、裁判員制度・社会問題にどう対応するか」として、真宗念仏者、刑法学者でもある、平川宗信名古屋大学名誉教授より、③「宗教者として、実際に裁判員制度に参加して感じたこと」として、NPO団体ファミリー・リカバリー・センター代表、澁谷友光青森キリスト教会ジョイフルチャペル牧師より、④「人を裁く重さ—市民の視点から裁判員制度を考える—」として、裁判員ネット代表理事、大城聡弁護士より、それぞれの立場、視点からの研究報告がなされました。

午後からは、引き続き桜の間では個人発表が行なわ



釜田隆文 宗務総長



大谷哲夫 総合研究センター所長



シンポジウム 宗教と法律—「裁判員制度」を考える

れました。また、蘭の間では午前・午後にわたって、それぞれ個人発表が行われました。

個人発表では、従来の宗学や教化学に関連する分野はもちろんですが、宗学においては瑩山禅師と浄土思想について、瑩山禅師と『典座教訓』、『坐禅用心記』の定の解釈、『伝光録』にみる同安寺の宗風についてなど、瑩山禅師に関する意欲的な発表が多くなされました。

また、教化の分野では、寺院・教団の未来予測とその存在意義、寺院再編論—こころを癒す地域の核として、現代の教化における構造的理解の必要性と教化活動など、現代の教化に関する発表が行なわれる一方、坐禅普及の一方策—ワークショップ的坐禅の場づくりについて、禅社員研修におけるニーズの所在、続「一人称の教化論」の提案—現代人の救いとしての禅など、坐禅の教化法に関する発表が意欲的になされました。その他には臨床宗教師に関する発表や、寺院における「死別の悲しみを分かち合う会」の意義、仏前結婚式、永代供養墓、曹洞宗的食育プログラムの提案など、現代社会に対する幅広い視点からの教化手法・教化理論の提案が多くありました。

二日間にわたる大会では、両日共に宗門内外からの熱心な聴講者が見られ、盛会裡に幕を閉じました。なお、発表内容は総合研究センター学術大会紀要並びに講演録としてまとめられますので、併せてご参照ください。本学術大会はセンター在籍者のみならず、宗門内外から広く発表者を募集しております。今後の宗門発展の礎となる意欲的な発表をお待ちしております。



活発な質疑応答がされた



多くの聴講者が耳を傾ける



教化に関する活発な意見交換も見られた

学術大会開催報告

[第1日] 10月28日(水)

第1部会 <桜の間>

午前の部(10時~12時)

<シンポジウム>

「宗教と法律」研究プロジェクトシンポジウム
宗教と法律 - 「裁判員制度」を考える -

司会: センター専任研究員 宮地清彦

シンポジウム講師

○裁判員制度の現状と今後の展望

弁護士、東海大学法科大学院教授

司会: センター委託研究員 落合洋司

○仏教者は、裁判員制度・社会問題にどう対応するか

真宗念仏者、刑法学者、名古屋大学名誉教授 平川宗信

○宗教者として、実際に裁判員制度に参加して感じたこと
青森キリスト教会ジョイフル・チャペル牧師、
NPO団体ファミリー・リカバリー・センター代表 澁谷友光

○人を裁く重さー市民の視点から裁判員制度を考えるー

弁護士、裁判員ネット代表理事 大城 聡

午後の部(13時40分~16時40分)

1. 梅花流の発足と曹洞宗尼僧団

センター委託研究員 佐藤俊晃

2. 「止揚」という新熟語をめぐって-大内青巒に学び
姉崎正治が創案

国際啄木学会評議員 山田武秋

3. 聖一国師法語『指月集』考

駒澤大学仏教経済研究所研究員 千葉 正

4. 鎌倉 海蔵寺と源翁心昭

曹洞宗研究員 上野徳親

5. 備中地方における坐禅堂の歴史

大通寺住職 柴口成浩

6. 雲門宗に関する一考察

駒澤大学大学院 角田隆真

7. 『釈禅波羅蜜次第法門』「治病患」について

駒澤大学禅研究所研修員 大松久規

8. 少林妙崧と長翁如浄ー浄慈寺と徑山の住持職をめぐって

駒澤大学教授 佐藤秀孝

9. 寛巖春登の伝記と業績

龍泉院住職 椎名宏雄

第2部会 <蘭の間>

午前の部(10時~11時40分)

1. 寺院・教団の未来予測とその存在意義

センター専任研究員 平子泰弘

2. 人口減少社会の中の「教化」に関する一考察

鈴鹿大学短期大学部教授 川又俊則

3. 僧侶教育として考える、臨床宗教師

普門寺副住職 高橋悦堂

4. 現代の教化における構造的理解の必要性と教化活動

鶴見大学仏教文化研究所研究員 橋本弘道

5. 寺院再編論ーこころ癒す地域の核として

こちら OK 行政書士事務所 行政書士 勝 桂子

午後の部(13時40分~16時20分)

6. 続「一人称の教化論」の提案ー現代人の救いとしての禅

センター専任研究員 関水博道

7. 禅社員研修におけるニーズの所在

センター専任研究員 宇野全智

8. 坐禅普及の一方策ーワークショップ的坐禅の場づくり
について

センター副主任研究員 小杉瑞穂

9. 実践仏教を考える(1)ー教理と実践の分離について

センター研究生 松葉裕全

10. 曹洞宗的食育プログラムの提案ー食育活動との比
較を通して

センター研修生 田澤玄幸

11. 演劇と宗教ー演劇的伝達による布教、伝道の可能性

センター研究生 中野孝海

12. 仏前結婚式の研究ー同性婚の是非について

センター研究生 本多清寛

13. 短大生の宗教意識と仏教教育ー生命尊重の心を育
むために

育英短期大学教授 佐藤達全

〔第2日〕 10月29日（木）

第1部会 <桜の間>

午前の部（10時～11時40分）

1. 法観寺釈運について—寒巖義尹と大智をつなぐ僧侶
花園大学非常勤講師 館 隆志
2. 「折水偈」雑考
センター専任研究員 古山健一
3. 道元禅師成仏論の法孫への影響について
愛知学院大学講師 菅原研州
4. 輪住寺院における輪番の周期について
曹洞宗文化財調査委員会主事 伊藤良久
5. 瑩山禅師と浄土思想について—撰述書における浄土思想への言及
センター専任研究員 宮地清彦

午後の部（13時～16時20分）

6. 建綱と建擲の関係（九）—全久院十種の法宝から
正洞寺住職 熊谷忠興
7. 近世越後における曹洞宗の録所について
永泉寺住職 深井一成
8. 天桂伝尊における心解釈
センター副所長 志部憲一
9. 別本『仏向上事』考
駒澤大学大学院 若山悠光
10. 『正法眼蔵重写記』所収の道元禅師伝について
駒澤大学大学院 秋津秀彰
11. 『坐禅用心記』の定の解釈（三）—動静二相了然不生を中心として
駒澤大学大学院修了 下條 正
12. 瑩山禅師と「典座教訓」
センター研究員 加藤龍興
13. 『伝光録』にみる同安寺の宗風について
センター専任研究員 小早川浩大
14. 道元禅師の釈尊観に関する一考察
センター研究員 清野宏道
15. 正信論争考（十二）—樽林博士の信について（四）
龍昌寺住職 竹林史博

第2部会 <蘭の間>

午前の部（10時～11時40分）

1. 僧侶が障がい者に向き合うということ
センター研究生 寺門典宏
2. 寺院におけるグリーンケアの可能性—インタビュー調査から
センター研究生 澤城邦生
3. 寺院における「死別の悲しみを分かち合う会」の意義
花園大学講師 西岡秀爾
4. 香、匂い袋考—東日本大震災支援活動における事例をもとに
センター専任研究員 久保田永俊
5. 「伝統こけし」展示と製作実演による東北復興支援の実践
高岩寺住職 来馬明規

午後の部（13時～14時40分）

6. 高齢者施設における僧侶の可能性
センター研修生 村上光龍
7. 寺院の「居場所」となる可能性—「居場所」づくりに取り組む人々の取材を通して
センター研修生 竹村信彦
8. 世襲制と寺族問題
女性と仏教・関東ネットワーク 瀬野美佐
9. 永代供養墓を媒介に寺院と関わる人々への寺院の役割
センター研修生 國生徹雄
10. 葬儀仏教の意義を説く薄井論文の活用事例
龍潭寺住職 別府良孝